

「情報 C」から「社会と情報」へ 移行を意識した授業展開をすべて見せます

近江兄弟社高等学校 長谷川 友彦

要旨 本校の「情報 C」では、移行を意識して生徒たちに対しては「社会と情報」という名称を使っています。授業内容も、移行を意識した内容にシフトしています。本発表では、本校で作成した教材をすべてお持ちしました。みなさんにご覧いただき、教材作成のノウハウの交換ができればと考えています。また、各校で「社会と情報」の授業を組み立てる参考にしていただけると幸いです。

1. はじめに

2013 年度は、いよいよ新学習指導要領が本格実施される年度です。次年度以降は「社会と情報」、「情報の科学」の 2 つの科目が展開されることとなります。

本校では 2003 年に教科「情報」が始まって以来一貫して「情報 C」2 単位を 2 年生時に実施してきました。2013 年度入学生より、「社会と情報」2 単位を 1 年生時に実施する予定をしています。

2. 「情報 C」を「社会と情報」として

2011 年度より、「情報 C」の授業を生徒に向けては「社会と情報」という名称で実施しています。

これは、2013 年度にスムーズに移行できるよう、今のうちから以降を意識した内容の再構成をしようとしたことと、生徒に内容をわかりやすくしたことが理由です。

かねてより「情報 C」の「C」の持つ意味がなかなか生徒に理解させるのが難しいと感じていました。「情報」という言葉の持つ「理系」や「コンピュータ」といったイメージ、数学のように「A」→「C」の順に難易度が上がるようなイメージが先行してしまうようです。県内の多くの学校が「情報 A」を履修していることから、本校だけが「難しい科目を受けさせられる」ように感じていたそうです。

そこで、学校の履修上と教科書は「情報 C」であるが、生徒向けに配布する教材には「社会と情報」の文字を明記して配布するようにしました。

3. 本校「情報 C」の概要

本校「情報 C」の授業では、単元ごとに生徒にはワークシート形式の授業冊子（図 1 参照）を配布し、冊子を中心に学習をしています。本発表では、昨年度または今年度作成した授業冊子のサンプルを持参しました。手に取っていただき、教材作成のノウハウの交換ができれば幸いに思います。

また、この発表を通して本校で実践している「社会と情報」の名前で実践している「情報 C」の授業の全容を知っていただきたいと思います。ここでは、今年度の授業計画を紹介します。

図 1 ワークシート形式の授業冊子の例

3.1 「情報とは何か」

「社会と情報」の授業の導入として、「情報の特徴とメディア」について学びます。ここでは情報の本質はコミュニケーションにあるとし、コミュニケーションの歴史についても取り扱っています。

3.2 「情報の図解化」

次の「プレゼンテーション実習」につなげるために、情報を端的に視覚的に表現する方法を学びます。

3.3 「プレゼンテーション実習」

「わたしの過去・現在・未来」または「わたしの未来予想図」をテーマにプレゼンテーションを行ないます。発表に重点を置きたいため、調べるというプロセスを行わず、アイディアテンプレートに取り組みさせることでストーリーが作成できるように工夫しました。

3.4 「知的財産権の保護」

知的財産権について、主に著作権について取り

扱います。著作権については、著作者の立場、利用者の立場の両面から学習することによって、相互の利害関係を理解させ、どうすれば文化の創造と発展に貢献できるのかについて考えるきっかけになればと考えています。

3.5 「情報を調べる」

本校の教育の特色の一つでもある「分散型海外研修旅行」の事前学習の一環として、海外研修旅行の行き先に関する調べ学習とプレゼンテーション発表を行ないます。調べ学習は単なる「見付け学習」となりがちです。ここでは、情報を調べる方法として、思考マップを用いて調べたことをまとめる作業をさせる課題を行なうことで、より充実した調べ学習ができるように工夫しています。

この単元は、昨年度までは「情報の活用」として、メディアリテラシーのように情報の信頼性や信ぴょう性を読み取る内容を含めていましたが、今年度はこの部分を独立して後述の単元に独立させる予定をしています。

3.6 「情報の公開と保護」

ここから先は、今年度はまだ実施していない箇所であるため、予定となります。ここから先の授業冊子は昨年度のものを持ってまいりますので、若干内容が異なるかもしれません。

情報公開と知る権利について、また個人情報の保護についての学習を行ないます。ポイントカード利用規約や Web 上のプライバシーポリシーなどを読ませることで、社会の中で個人情報がどのように活用されているかを知り、個人情報をコントロールすることの必要性を学びます。

3.7 「情報とデザイン」

「情報の表現と伝達」について、「デザイン」の視点から学習します。ベクターグラフィックを用いてピクトグラムを制作する実習に取り組みます。相互評価を通して、情報をわかりやすく伝達する工夫を学びます。

3.8 「情報を読み取る」

今年度新設（前年度まで海外研修旅行プレゼンテーション実習の単元の中に入れていた内容を独立させる予定）する予定の単元ですので、冊子はありません。

メディアリテラシーとは何かについて学び、情報の信頼性や信ぴょう性について判断する方法について学びます。写真の加工の実習を通して、同じ写真でも切り取り方や加工の方法によって、そ

こに込められた意図や目的が異なることを実践的に学びます。

3.9 グラフ表現と情報伝達

数値による情報を伝える手段としてグラフの作成方法を学びます。グラフの種類によって伝えられる情報が異なることや、同じ種類のグラフでも表現の仕方によって読み手に与える印象が異なることを学びます。また、グラフを利用することで数値データから多面的に情報を分析する実習も行ないます。

3.10 「ネットワークとセキュリティ」

TCP/IP を中心とした情報通信ネットワークのしくみや成り立ちを学びます。また、情報通信ネットワークの広がりの中、どのような脅威が存在し、脅威に対してどのように身を守っていくかについて学びます。

3.11 「情報社会を創造する」

社会ではたらく情報システムを紹介しながら、そこに情報通信ネットワークやデータベースがどのようにはたらき、どのような情報を活用してシステムが成り立っているかについて学びます。

また、ここではデータベースに関する実習（詳しくは分科会発表を参照）を取り入れ、データベースから情報を取り出す方法、データベースの設計の方法を学びます。

最後に、クラウドコンピューティングや世界の情報化など、情報化の未来について取り扱い、社会の情報化の未来に希望を持って「社会と情報」の授業の締めくくりとしています。

4. おわりに

ぜひ発表の場に来ていただき、いろいろな情報交換ができればと考えています。

参考文献

- (1) 文部科学省 (2010)『学習指導要領解説情報編』
- (2) 文部省 (2003)『学習指導要領』
- (3) 長谷川友彦 (2008)「こころをつなぐ情報科教育の実践～『情報』とは何かを中心に」、第 39 回 ICTE 情報教育セミナー in 関西大学。
- (4) 長谷川友彦 (2011)「教科『情報』で生徒たちに具体的にどのような力を身に付けさせたか」、第 4 回全国高等学校情報教育研究会。
- (5) 長谷川友彦 (2009)「コミュニケーションを柱にした『情報 C』そして『社会と情報』へ」、日本情報科教育学会学会誌 No.2。